

事業計画書

事業名	常和を元気にする復興まちづくり事業	
重点テーマへの該当	有 テーマを記載	「さくの絆作戦」を基礎として地域が防災力を高める取組
	無	
実施箇所	常和区内全域	
実施期間	事業開始予定年月日	令和 3 年 4 月 1 日
	事業終了予定年月日	令和 4 年 2 月 20 日
事業概要	<事業の目的> ・台風19号により大きな被害を受けた当地域では、再度災害を防止するためソフト・ハードが連携した防災対策が必要である。 ・地域住民が主体となって安心・安全な地域づくりを進める必要があり、ソフト対策として消防団と緊密に連携した避難体制の強化など地域防災力向上のための様々な取組を行う。	
	<事業の内容> 1 広報・災害伝承活動（復興まちづくり通信の発行） 災害復旧工事の状況等について、紙ベース（高齢者も見易い）の情報を全戸配布し、区内での情報共有と事業の円滑な促進を図る。 災害伝承活動として、災害発生から復興までの記録を作成し、後世に伝える。 2 避難体制の強化（防災リーダーの育成、簡易雨量計の設置） 地域の防災リーダー育成（防災士の資格取得支援（個人負担あり））により、自主防災組織の機能を強化する。 簡易雨量計を増設配置し、情報収集機能を高める。 3 復興拠点の整備（区民協働による交流の活発化） 復興活動のシンボルとして、区民協働で被災箇所周辺の整備を行い、住民相互の交流を活発化させる。	
	<達成目標> 1 広報・災害伝承活動 まちづくりだよりの発行・・・R3：6回（隔月発行） 2 避難体制の強化 防災リーダー育成（防災士）・・・R3：4名（うち2名は女性、累計10名） 簡易雨量計の設置・・・R3：5基（累計10基） 3 復興拠点の整備 つつじ公園の整備・・・R3：移植100本	
	<広報表示の方法> ・公民館に「佐久市まちづくり活動支援金を活用して防災体制を強化しました」と記載した立札を設置 各備品（簡易雨量計、ヘッジトリマー）にシールを貼付 ・復興拠点（つつじ公園）に「佐久市まちづくり活動支援金を活用して公園を整備しました」と記載した立札を設置	
	<重点テーマに該当する理由> 区民と消防団が連携して、地域防災力強化の取組みを進めることから重点テーマに該当 ・取組みの具体例・・・防災・減災勉強会の開催、防災リーダーの育成 自主避難のためのハザードマップ、マイタイムライン、 防災マニュアルの作成	

R3年度 年間計画	4月	まちづくりだより（第7号）の発行 防災・減災勉強会（R3：第1回） 環境勉強会（R3：第1回） 復興拠点整備（サライ群生地、つつじ園水路）	※ 通 年 で 行 政 と の 協 議 ・ 調 整 ・ 災 害 復 興 記 録 の 作 成 に 取 り 組 む
	5月	イベント開催（つつじ祭り） 自主防災組織の机上訓練（防災士、消防団） 簡易雨量計設置（5基）	
	6月	まちづくりだより（第8号）の発行 支え合いマップの検討着手 イベント開催（復興野菜（レタス）収穫） 復興拠点整備（つつじ移植）	
	7月	防災・減災勉強会（R3：第2回） 環境勉強会（R3：第2回） 復興拠点整備（つつじ公園草刈）	
	8月	常和区防災訓練 まちづくりだより（第9号）の発行 復興野菜（大根）種まき	
	9月	防災・減災勉強会（R3：第3回） 復興拠点整備（つつじ公園園路）	
	10月	まちづくりだより（第10号）の発行 環境勉強会（R3：第3回）	
	11月	イベント開催（復興野菜（大根）収穫）	
	12月	まちづくりだより（第11号）の発行	
	1月		
	2月	まちづくりだより（第12号）の発行	
	3月		

特記事項	地域や社会にどのような利益がもたらされるか	<「公益性」の視点> 近年の異常気象に伴う災害の大規模化、被害の甚大化に対応した地域防災力の向上は、喫緊の課題となっている。 特にソフト対策として災害時の避難行動の重要性が社会的な課題であり、行政頼みでない地域自らの自主的な判断による迅速かつ安全な避難行動が求められている。 本事業により、地域防災力を向上させる様々な取り組みを消防団との連携のもと展開し、本地域のみならず他地域の防災力向上のモデルとなる。
	どのような点に独自性や工夫があるか	<「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点> 行政頼みでない地域防災力を構築するため、小規模なコミュニティに視点をおいた、きめ細やかな防災行動計画を策定する。 ・自主防災組織の中心的役割を担う防災リーダーの育成・配置 ・簡易雨量計の増設配置による、迅速な情報収集・伝達 ・R2年度に作成したハザードマップをブラッシュアップする。 （災害時要援護者の避難に視点をおいた（支え合いマップ）見直し） ・新型コロナへの感染対策として、市の指定避難所以外に近隣企業の協力を得て、一時避難所を確保する独自の取り組みを行っており、R3年度において具体的な活用方法を防災訓練を通じて試行する。
	市内へどのように取組が波及していくことが見込まれるか	<「波及効果」や「発展性」の視点> 本事業において実施する様々な取り組みを、「復興まちづくりだより」として国・県・市などの行政機関や各種団体など通じて地域内外に配布するなど、広く情報発信する。 先進的・効果的な取り組みについては、その効果等を検証し、佐久市など関係機関と連携して、他地域にも取り組みを拡大、拡充していく。
	活動を継続するためにどう取り組むか	<「自立性」の視点> 活動の中心となる「常和復興まちづくり協議会」への参加メンバー（現在46名）を増やし、活動を活発化させる。 複数のイベント（つつじ祭り、復興野菜収穫祭）の開催により、事業を楽しながらまちづくり活動のモチベーションを高め、維持する。
	その他	<新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策の方法> 屋内での勉強会や野外イベントにおいて、以下の対策を徹底する。 ①マスクの常時着用、人同士の間隔（2m以上）確保を呼びかける。 ②受付時に検温実施、消毒液塗布を行う。 ③会議時間を極力短くし、室内換気を必ず行う。
	翌年度以降の活動内容概要	単発的な取り組みでなく、災害復旧工事の行われる3～4年間の全体計画（別添）に基づき、まちづくり活動を継続的に展開する。 ・広報・伝承活動 …まちづくりだよりの発行（隔月）、復興誌の作成 ・避難体制の強化 …自主防災組織の強化、 手作りハザードマップ、タイムラインの作成 ・復興拠点整備 …つつじ公園、サクラソウ群生地（荒廃農地の復旧、整地）
	事業の最終目標	災害伝承活動 …最終年度に「復興誌」を編纂・発行・配布 避難体制の強化 …消防団、防災リーダー等が連携した自主防災組織の構築 手作りハザードマップ、マイタイムラインの作成 復興拠点の整備 …つつじ公園、サクラソウ群生地の復旧、拡張による拠点づくり